

第 46 回 技術者交流フォーラム事業 in 室蘭

火山防災 — 火山と共生していくために — 開催報告

1. はじめに

道央技術士委員会は、令和 7 年 7 月 23 日(水)に国土交通省 北海道開発局 室蘭開発建設部、国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所と共同で、「第 46 回 技術者交流フォーラム事業 in 室蘭」を開催しました。

本フォーラムでは、火山防災の課題や取組事例の紹介、情報交換を通じて、産学官の技術者交流及び連携を図り、災害対策充実の一助とすることを目的に開催されました。



写真-1 会場の様子(参加者 142 名)

2. 開催概要

◇開催日時：令和 7 年 7 月 23 日(水) 13:30 ~ 17:00

◇開催地：室蘭プリンスホテル(室蘭市中央町)

◇開会挨拶：室蘭開発建設部長 佐藤 徹

◆基調講演：

胆振地方の活火山と噴火による災害について

室蘭地方気象台 火山防災官 宇内 克成 氏

◆技術者の交流(パネル展示)：

◆一般講演：

1. 樽前山における火山砂防の取り組み

室蘭開発建設部 苫小牧砂防海岸事務所長

松井 博幸

2. 有珠山 2000 年噴火後の対策と火山噴火緊急減災対策

公益社団法人 日本技術士会北海道本部

防災委員会防災・減災支援ワーキンググループ

阿部島 啓人

3. 1977 年の有珠山噴火後の火山砂防の発展と泥流研究の取組み

土木研究所 土砂管理研究グループ

火山・土石流チーム 主任研究員 清水 武志

◇閉会挨拶：寒地土木研究所長 井上勝伸

3. 基調講演

胆振地域には、有珠山、倶多楽、樽前山の 3 つの常時観測火山があり、温泉や風光明媚な景観なども観光資源として地域にもたらし、多くの観光客が訪れる場所になっています。その一方で噴火活動により人々の生活や物流に大きな影響を与え続けている危険な一面を併せ持っています。

火山災害に備えるためには、火山に関心を持ち、その特徴の把握、噴火の事例からどんな災害が起こるか知っておく必要があります。噴石、火砕流、火山泥流、降灰における事象から、3 火山の防災情報の噴火域レベルをご説明いただきました。



写真-2 宇内 克成 氏の基調講演

4. 技術者の交流(パネル展示)

フォーラムでは、各機関からの火山防災や減災に関するパネル展示が休憩所も兼ねて、会場横に設けられており、盛んな技術者交流が随所で行われました。



写真-3 パネル展示場での技術者交流

5. 一般講演

(1) 樽前山における火山砂防の取り組み

樽前山の噴火の歴史、周辺の状況、砂防設備を配置する課題を示され、実際に施工されている砂防堰堤の概要、施工手順、DX の取組 (ICT 施工) についてご講演いただきました。



写真-4 松井 博幸 氏の講演

(2) 有珠山 2000 年噴火後の対策と火山噴火緊急減災対策

道央技術士委員会では、火山防災のエキスパートが在籍していないため、日本技術士会北海道本部防災委員会から 阿部島啓人 氏に講演を依頼しました。

直近の噴火である、2000 年噴火の被害状況から観測機器設置等のソフト対策、砂防堰堤施工等のハード対策を示いただき、その経験からの緊急減災対策として、「有珠山火山噴火緊急減災対策砂防計画」における関係機関との連携・協力体制(ワーキンググループ)で北海道、開発局、国有林、気象庁、

周辺自治体などが協力して実施していくものであるとご講演いただきました。



写真-5 阿部島 啓人氏の講演

(3) 1977 年の有珠山噴火後の火山砂防の発展と泥流研究の取組

過去の火山災害を事例やデータから、死傷者数が多い泥流は降灰後の弱い雨によって頻発する。有珠山の噴火によって、火山防災が始まったこと、新しいハード対策が実践された。最後に有珠山噴火のデータを電子化についてご講演いただきました。



写真-6 清水 武志氏の講演

6. まとめ

私たちの活動拠点である胆振地域の活火山。過去の火山災害から様々なハード・ソフト対策が実践されており、全国的に災害が多いと感じる昨今ですが、大変心強く感じました。

しかし、災害はいつ起こるか予想できない事象で、胆振東部地震の発生から私たちも学んでいます。特に 2000 年以降の有珠山についてはこの地域の人々が気になるところで、フォーラムが盛況だった理由のような気がします。

道央技術士委員会としてもこのフォーラムを契機に活動の場を広げて、地域防災、減災への貢献に目を向けて行こうと考えています。